

〔長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。〕

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《西浦上・三川地区》

❀ 第2回 開催報告 ❀

ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 平成30年7月21日(土)18:30~20:30

場所 長崎大学工学部

参加者 地域の皆さん 23人



1 第2回までに話し合った内容

第1回

(6/23)

- ①長崎市の**公共施設の現状**（利用状況や老朽化の状況など）や**見直しの必要性**についてご説明しました。
- ②西浦上・三川地区の将来を考えるうえで、**見直した方がいいと思う施設**と、**その理由**について話し合いました。



第2回

(7/21)

- ①公共施設の種類ごとに**市全体の公共施設の配置の考え方**と、西浦上・三川地区にある**施設の配置の考え方**をご説明しました。
- ②**配置の考え方**に対して、グループごとに**課題やアイデア**を出し合いました。

2 公共施設の配置の考え方

ホール型施設

ホール型施設は、全市民を対象とする施設として、公共交通機関の便がよく、市内全域から利用しやすい場所に配置します。



チトセピアホール

❀チトセピアホールは、市民の文化活動や交流の場として引き続き配置し、現在の施設をこれからも活用していただきたいと思います。

子育て関連施設

子育て支援センターは、子育て中の保護者の皆さんの孤独感や不安感の軽減を図るため、子どもを育てる保護者が気軽に集い、相互に交流や相談等ができる場所として「長崎市子ども子育て支援事業計画」に基づき、市内16区域に設置することとしています。



西浦上地区
子育て
支援センター
「ぴよぴよ」

❀西浦上地区子育て支援センターについては、安心して子どもを産み育てることができ、地域や社会に見守られながら子どもたちが健やかに育つことができるよう、現在の施設をこれからも活用していただきたいと思います。

第1回 対話の 主な ご意見

部屋を
広くして
もらいたい。

お答え

部屋の拡大については、同じ建物内にある「すみれ荘」の将来のあり方考える中で施設全体の有効活用を考えていきます。また、子育て支援センターは、市内16区域のうち7区域で未設置となっているため、引き続き未設置区域の解消に努めます。今後、近隣地区の設置が進むことである程度利用者の分散化も図られると考えています。

保育所

安心して子どもを産み育て、子どもたちが健やかに育つ環境を整えるうえで、保育・育児サービスは必要です。



大手
保育所

❀市立保育所は民間移譲を基本としつつも、直ちに移譲することが困難な施設については、当面存続することとしており、大手保育所についても、当面の間存続する方向で考えています。

2 公共施設の配置の考え方（つづき）

コミュニティ活動施設

地域の皆さんが身近にふれ合い、さまざまな活動を行っていく場所として、気軽に立ち寄ることが出来る地域コミュニティの場はこれからも必要です。

今後は、ふれあいセンターや地区公民館などに加え、特定年齢層を利用対象とした老人憩の家や児童館・児童センターなどの施設も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。

- 地域の皆さんが最も身近な場所で、話し合いの場やさまざまな地域活動に利用する地域コミュニティの活動拠点は、概ね小学校区の範囲への配置を考えています。
市の施設で活用できるところがあれば、ご相談いただきたいと思います。
- 多数の参加が見込まれる活動などのため、小学校区の施設より広いスペースや、調理室などの特定の設備が必要な施設は、小学校区の施設を兼ねる形で、概ね中学校区の範囲への配置を考えています。
- 中学校区を超えた大規模な催しなどのため、対応できる広いスペースや、ホールなどの設備が必要な広域的に利用できる施設は、長崎市の都市計画上の地域拠点または交通の便の良い場所への配置を考えています。
- 市域全体から利用される施設は、交通の便のよい都心部及び都心周辺部に配置する考えです。



北公民館

- ❖北公民館は、大規模な催しや講座等が可能な広いスペースや調理室など特定の設備を備えた施設で、複合商業施設(チトセピア)に設置されている利便性もあり、市内全域の方に利用されています。
- ❖地域に限らず、市内の広い範囲からコミュニティ活動に利用できる施設として、開館時間の延長を含め、開館日の見直しを検討しているところです。

第1回対話 の主な ご意見

図書室を拡大
してもらいたい。

お答え

- 公民館自体の利用も多く、公民館内の他の部屋を活用するなどの対応は困難と考えています。
- 市立図書館を拠点として公民館やふれあいセンターなどの図書室をネットワークで結び、相互に利用できる体制を整えていますので、ご利用いただきたいと思います。



老人福祉センター
すみれ荘

- ❖老人福祉センターすみれ荘は、北公民館と同じコミュニティ施設に分類されますが、広い和室や集会室、娯楽室の他、入浴機能を有する施設となっています。
現在の施設については、これからも活用していただきたいと思います。高齢者専用施設で、開館時間も短いことから、地域活動の拠点として使いやすくなるように、将来的には使い方の見直しを検討する必要があると考えています。

第1回対話 の主な ご意見

入浴機能は
本当に必要な
機能なのか。

お答え

- 高齢者人口がピークを迎えるまで、当面は今の施設の機能を維持しますが、将来的には、利用者数の推移や設備の耐用状況を踏まえ、入浴機能の必要性を含めた施設のあり方を検討します。



三川地区
ふれあい
センター

- ❖三川地区ふれあいセンターは、研修室や調理室を有し、地域活動の拠点となっています。
- ❖地域の皆さんのコミュニティ活動に利用できる施設として、現在の施設をこれからも活用していただきたいと思います。

学校

学校の適正配置については、教育委員会が地域と協議させていただいています。



西浦上小学校



川平小学校



三原小学校



女の都小学校



西山台小学校



西浦上中学校



三川中学校

放課後児童クラブ

※学校施設や敷地を活用して設置されている放課後児童クラブを記載

放課後児童クラブは、子どもたちの放課後等における安全・安心な居場所の確保を図るために、小学校区ごとに設置されています。

基本的には、小学校の適正配置と合わせて、事業者による運営の統合を働きかけていきます。



ひばり
クラブ
(西浦上小)



ひばり
キッズ
(西浦上小)



みはら
クラブ
(三原小)



ピノキオ
クラブ
(女の都小)



たんぽぽ
クラブ
(西山台小)

市営住宅

今後、人口・世帯数が減少し、民間の空き家も増加するため、市営住宅の需要は減少すると予想されます。そのため、セーフティネットとしての役割を担いながら、将来的には市全体の市営住宅の総戸数を減らしていく方針です。

今後、建て替える際は、できるだけ集約化して効率的な維持管理ができるようにし、配置は、長崎市の「立地適正化計画」によるコンパクトなまちづくりや市内各エリアにおける特性を十分勘案して、見直します。



三原住宅



千歳住宅



川平住宅



女の都住宅



西山台住宅



花丘住宅



文教住宅

- ❖三原住宅は、老朽化し耐震性が低いことから、今後、建替事業を実施し規模を縮小する予定です。規模の縮小により余剰地が生じた場合は、民間活用も含めて効果的な活用方法を検討していきます。
- ❖その他の住宅は、現在の建物を適正に管理し、大規模な改修や建替えが必要となるタイミングで、人口などの状況を踏まえ、規模の検討を行います。

市営駐車場

二輪車等駐車場は、今後の保有台数の減少を考慮しても、市内中心部において不足することが想定されることから、今後も、必要台数の確保に向けて官民連携して整備を推進する必要があります。



住吉町二輪車等駐車場

- ❖住吉町二輪車等駐車場は、周辺道路における二輪車等の路上駐輪の防止、道路交通の円滑化、良好な生活環境の確保のため、引き続き維持することとします。

庁舎等

身近な手続きや相談ができ、地域のまちづくりを支援する機能は、引き続き必要と考えています。



西浦上地域センター

- ❖西浦上地域センターについては、現在の施設を引き続き、適正に管理していきます。



北部現場事務所

- ❖北部現場事務所については、当面は現在の施設を引き続き適正に管理していきます。

公園

公園には、「防災や避難等災害に対応できる機能の確保」、「複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出」、「スポーツ施設等の利用環境の充実」、「健康づくりのための機能の導入」など、多様なニーズへの対応が求められます。

市内における都市公園の市民1人当たりの標準面積は10平方メートル以上、市街地の市民1人当たりの標準面積は5平方メートル以上とし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し、配置の均衡を図ることとしています。



女の都運動公園

- ❖西浦上・三川地区の公園は、配置や面積の状況等からほぼ充足していますので、基本的には現状を維持することとし、公園再整備の際には、社会状況の変化を踏まえながら公園ごとの施設のあり方や機能分担、統廃合等の検討を行い、公園利用者のニーズに合った整備を進めていきたいと考えています。



泉町公園

3 グループワーク

今回の対話では、長崎市が考えた西浦上・三川地区の公共施設の配置の考え方について話し合ってもらい、課題やアイデアのとりまとめを行っていただきました。



4 発表

- 1班
・川平・女の都地域にはもともと公共施設が少ない。
- ・学校だけが唯一の避難所でいいのだろうか。市営アパート、県営アパートも避難所にできるのでは。
- ・県立大が近くにあるので、災害時には県とも施設を使わせてもらうよう話をしなければいけないのでは。

- 3班
・1回目の開催報告を読んだ中では、公共施設を縮小する、減少させるというようなイメージをもった。市が今からどの分野に力を注ごうとしているのかを明確にしたら、何を充実させればよいのかという視点で議論ができるのではないかと。
- ・住吉地区は、高齢者や、子どもの数も増えてきている環境なので、そういう施設については、充実させることを考える必要がある。
- ・ぴよぴよは、維持していく施設となっているが、そのまま維持するのではなく、設備の使い勝手の見直しが必要では。

- 2班
・すみれ荘については、道路側の案内表示の問題、段差の問題など、何度も要望を出しているが、なかなか解決しない。
- ・チトセピアに北公民館や地域センター等があるという場所の良さを活用するのが一番であり、もっと利用の仕方を工夫できないか。
- ・チトセピアホールのロビーは割と広いので、公民館の図書館が狭い時に利用するとか、ちょっとした会議で利用できないのだろうか。

- 4班
5班
・市ではコンパクトシティ構想で凝縮したまちづくりを進めようとしているが、必要であれば分散したりしてもよい。
- ・使用目的の設定を幅広くして、多世代が使えるような施設を揃えるべき。
- ・災害時に仮に学校体育館を利用することになった場合、クーラーなどの環境整備、間仕切りなどの対応は長崎市ではどうなっているのか。

【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生）

- 市の方針として、用途別、サービスの種類別に見た時に、どういった分野に重点をおいて投資していくべきなのか、というご指摘がありました。それはこの市民対話を通じて、是非皆さんにもご意見頂きたい非常に重要な論点です。そのためにも、経営者目線で考えることが必要です。
- 公共施設を考えると、箱（建物）だけでなく、サービスやそこに関わっている「人」や「地域」の存在をすることも大事です。その目線を持つと、考える対象が公共施設だけでなく、地域にある皆さんの施設や活動とか、民間が持っている空間・サービスにも目が向いていくのではないのでしょうか。



次回の対話では・・・

第2回目の対話で住民の皆さまから出された意見に対しての市の考え方をご説明し、議論を深め、意見を集約したいと考えています。

第3回 日時：平成30年8月25日（土） 18：30～20：30

場所：長崎大学環境科学部 1階大会議室※第2回目とは場所が異なります。

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）